



寄り添える歯科衛生士に

実習前学生が戴灯式

明倫短大

歯科衛生士を目指す明倫短期大学（新潟市西区真砂3）の2年生37人は、2日から診療所や介護保険施設などでの実習を始める。これに先立ち、ろうそくを手に、決意を新たにす「戴灯式」が同校で行われた。

基礎課程を修了した歯科衛生士学科の学生は、実習を約1年間行い、実践的な技術や患者とのコミュニケーションを学ぶ。

実習の前に、戴灯式で決意を新たにした学生たち―新潟市西区真砂3

9月29日の式では、学生が1人ずつ名前を呼ばれ、指導を受けている教授から灯がともったろうそくを手渡された。宮崎秀夫学長（71）は、ろうそくについて「わが身を削って周りを明るく、温かくする」という姿勢の象徴だと説明。「学んできたことを生かし、心を込めて患者に接してほしい」と激励した。

神崎七星さん（19）は「患者の不安な気持ちに寄り添える歯科衛生士になるために頑張りたい」と、実習への心構えを語った。